

3. ParmoSense : 観光客の「楽しい」をシェアするプラットフォーム

(応募チーム : NAIST-UBI ParmoSense Developers (生駒市))

(評価)

ParmoSense は今回応募した学生チームが所属する奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科が開発している汎用の CGM プラットフォームと思われる。その具体的な応用の一つとして今回、観光客の「楽しい」を有機的にシェアし、生駒市のオープンデータとして生成し、観光情報としても活用してもらおうという観光情報のエコシステム構想の企画の提案であった。Code for Ikoma という Civic Tec の場がたなぎとなつて、学生チームの参加ができたことを評価したい。

(アドバイス)

(1) 観光客の立場に立ったインセンティブの充実

実際に観光客がこのシステムを使ってくれるかどうかポイントですが、観光コンテンツの集積とそれを取り巻く観光客コミュニティでどのような具体的な相互作用が起きて観光コンテンツが膨らみ、結果として観光客が増えていくのか、そのインセンティブをもう少し具体的に掘り下げてみてはどうでしょうか。その場合に観光客は感性で魅力を判断しがちです。そこにより焦点を当てた作りなり利用の流れを観光客のペルソナを想定して検討してみるのも一案です。生駒の観光客に ParmoSense を適用するとすれば生駒の観光客に特徴的な観光客ペルソナは何かも考えていく必要があると思います。

さらに、ParmoSense で集積された観光コンテンツに検索エンジンからのリーチャビリティの (SEO 的な) 向上対策を取り入れて、域外の観光客を呼び込む効果を検討してみたいかがでしょうか。

(2) 市の認知度向上策・交流人口増加策の検討に沿った ParmoSense の活用

生駒市では市の認知度向上と交流人口増加を本来の課題としていたので、観光の増進はその一部にすぎず、ParmoSense を利用して、市の認知度向上や交流人口の増加がどう図れるものか、今後の研究の課題として取り上げてみてはいかがでしょう。このためには、一般市民はどういう場面でどういう情報を同時に共有すれば、居住するための市の魅力度向上につながるのかを具体的に見ていく必要があるでしょう。居住者ペルソナと潜在居住者ペルソナに分けて彼らの行動パターンと情報共有の関係を研究することも考えられます。

(3) 生駒市と生駒市民／学生への一般的な期待 (これ各論ではなく総論に移すかと、。)

今回の応募は ParmoSense というシステムの観光客への応用とそれから生成されるオープンデータへの魅力があると思いますが、一方で市が所有する公開 (可能な) データを理由付けに活用して、生駒地域の課題を市民や学生とともに協働して解決する、アプリ開発に限定しないあるいはアプリ開発をその一部に取り込んだような地域の課題を解決するアイデアにもチャレンジしていただけたら素晴らしいと思います。